

自遊學

編集・発行

生涯学習をすすめる所沢市民会議

〒 359-0042 所沢市生涯学習推進センター内

TEL:04-2991-0303 FAX:042991-0306

http://www.manabi-tokoro.com/



「第七期・語り部養成講座
「ところ学」が閉講

昨年十月十九日、第七期語り部養成講座「ところ学」の修了式が行われました。開講式で参加された九名の受講生は、そのまま無事に修了式を迎え、全員が修了証を授与されました。九名の内の四名が皆勤賞で、熱心に楽しく受講される姿が印象的でした。

第七期養成講座はこれまでで最長の一年間・全二十回という講座で、座学、地域探訪、実技を通して所沢の歴史の伝承に向け学びを

重ねました。地域探訪の合間には受講生の親睦を深めるための食事会も行い、学びの楽しさと所沢についての情報交換により、生涯学習の一助になったものと思います。運営には実行委員

十名が交代で携わり、受講生と一体になり完走できた一年でありました。所沢の歴史をいかにして伝えるか、そのための語りはどう実演するか。まだまだ練習を重ね、魅力ある所沢の、魅力ある語り部に向け研鑽を積んで頂けたらと思います。

修了式は終わりではなく始まりです。市民会議が今後の活動を支援し盛り上げていければ、講座の成果を活かして語り部がより活躍できることでしょう。

八十代の学び

高田 俊一

最近のテレビで「ギャルマインド」と言うのが流

行っています。

『自分の好きなことを諦めずに続けること』だそうです。これを「ヘルシイマインド(健全な心)」と置き換えてみました。

私は幼少の頃から、虚弱体質の運動音痴で意志薄弱、記憶能力欠如の苛められっ子だったので。発達障害の一種であり、二十歳頃までは何も出来ず劣等感の塊みたいな存在でした。大学時代に弱さを克服しようと、合気道や卓球に挑戦しましたが、身体が異常に固い為すぐに挫折。団体での練習には付いて行かれませんで、人との競争でない皆がやらない事をしようと、百人一首の競技かるた、スケート、奇術、社交ダンス、日本画、俳句、短歌、詩等、そして四十歳頃に出会った仏道修行、一番

効果のあったのが真冬四ヶ月間、三年間の滝行でした。ここから私の人生は方向

転換を始めたのです。人の

心の奥底には煩惱という凶器が潜んでいます。中でも最も恐ろしいのが「瞋(いかり)」と言うもの。表面に現れると「怒り」となり次々と他の煩惱を発火させ連鎖的に爆発するものです。刃物は肉体を傷付けますが、瞋は心を傷付ける逆襲してくるのです。自分の精神を破壊するストレスとなり虚弱体質となつていたのです。つまり健全な心への一步として、この煩惱を軽減し取り去ることが出来たと確信しています。肉体は老いてきましたが、霊性という精神は発達中で、これからだと感じています。現在は、主として畳三枚大の日本画を描き、日本画壇の一翼を担う全国組織の団体「日本画院」の理事・審査員として頑張っています。そして人の役に立つならと、所沢市文化団体連合

会の会長に、更に生涯の集大成として、仏教の歴史を判り易い言葉で解説し、人が納得出来るように伝えることを目標に掲げています。それらを為すのに必要な健康を保つ為、卓球やボウリング、ハイキング、等多忙すぎる日々を乗り越えています

名人・達人に聞く会開催報告

第90回例会 九月十四日

「不要になった

身近な紙にも命を」

講師 さめさめばんださん

今回は使用済みの包装紙ほか、いろいろな利用された紙を使って様々なモチーフを毎日一作は作っているという、さめさめばんださんのお話で、アーティスト同士の繋がりか何人かのお手伝いの方や切り紙に興味のある方々がお集まりいただき、大変和やかな雰囲気

で終始しました。

最初は漫画家を目指したところから結局切り紙作家にたどり着いたいきさつをお話いただき、制作手法の説明や紙資源の有効活用の方からのアップサイクルの考え方等有意義な話と、実際の作品を100点ほど展示いただいた、アンケート結果でも好意的な反応の多い素晴らしい講演となりました。(加藤敏恭 記)

第91回例会 十月十二日

「超高齢社会の星、

93歳の鉄人ランナー」

講師 熊本道夫さん

熊本さんは一般人とはかけはなれたスケールを持つ方です。定年後に始めたマラソンは海外遠征でも年齢別ではほとんどが金か銀メダル。

さらには世界の七大陸の最高峰のほとんどの登頂に成功。苦労話もさらりと穏やかに、時に笑いも交えて

話され、「楽しかったですわー」を連発。どんな事でも楽しい思い出にできるのは素晴らしい才能です。九十三歳の今も陸上競技をする元気にあやかりたい方がほとんどでしょう。どこも悪い所がないという健康の秘訣を質問されても、規則正しい生活とサラダを欠かさない食事との答え。何か秘密があるのではとの問いには、スポーツ一家の家系で「そういうつくりなのでしょう」との答え。雨の日以外には走りや欠かさないと、というストイックさも天賦なのでしょうか。

「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる」(ルカ1:28)の言葉しか浮かびません。とにかく、桁外れの達人の話でした。(粕谷雅子 記)

第92回例会 十一月九日

「世界に一つだけの革製品！
作りませんか！」

講師 矢内昌巳さん

今回は革細工の達人の話でした。牛などの皮が革になる工程に始まり、靴、衣類、カバン、財布など革製品の製造から古くなった革製品のリメイク、リペアまで話されました。

矢内さんの手にかかる和使用古した製品が見事に変身し、息を吹き返すのです。前半のお話のあと後半は実技演習です。参加者のほとんどが実習に参加され、手作りのマイ名札作りを楽しみました。会場はトントんと革に印字、刻印する音であふれ、にぎやかな例会となりました。

(川地 武 記)

第93回例会 十二月十四日

「所沢をもっと住みよい街に！」

ある不動産会社の挑戦

講師 上田福三さん

今回は北斗不動産会長に話を聞きました。同社は不動産全般を扱うのはもちろん、上田さんの「不動産会社の仕事は街づくり」というお考えにより、市内各地の地域おこしや空き家対策、車いすステーションの設置、若手芸術家に発表の場を提供するなど多彩な活動をしています。

今回の講演では更にこれまでに構想されて提案したことの一部を話していただきました。例えば現在はエミテラスとなったスペースにニューヨークのセントラルパークのような公園を作ったらとか。旧市庁舎の場所に大規模な立体駐車場を作り、所沢に遊びに来た人にはそこに車を置いて市内をループバスで回ってもらおうとか。夢のある話に皆さん感心しておられました。(加藤敏恭 記)